<table>
<tr><td colspan="6">会　　議　　録</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和４年度第２回認知症施策事業推進委員会</td><td>日時</td><td>令和５年２月２２日（水）
午後７時～午後７時３０分</td><td>場所</td><td>Ｗｅｂ会議及び
市役所第２庁舎
８０１会議室</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="5">小金井市福祉保健部介護福祉課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="4">委員長　　三澤　多真子（小金井市医師会）
委員　　田中　智巳（小金井市薬剤師会）
委員　　菊池　里香（医療機関医療連携相談室担当者）
委員　　林　絵美子（訪問看護ステーション）
委員　　木村　利子（居宅介護支援事業所）
委員　　杉森　珠美（認知症家族会支援事業所）
委員　　益田　智史（小金井市商工会）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="4">認知症地域支援推進員　　佐伯　良子
認知症地域支援推進員　　杉森　珠美（兼任）
認知症地域支援推進員　　作左部　靖子
認知症地域支援推進員　　髙橋　美樹
高齢福祉担当課長　　平岡　美佐
介護福祉課主査　　濱松　俊彦
介護福祉課包括支援係主任　岡﨑　章尚
介護福祉課包括支援係主任　石井　哲平</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td colspan="2">◎ 可 ・ 一部不可 ・ 不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="3">傍聴不可・一部不可の場合の理由</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

次　　第

１　開　会

２　議　題

（１）　令和４年度認知症施策事業の実績報告について

（２）　チームオレンジ設置に向けた基本的な考えについて

３　その他

４　閉　会

１　開　会

２　議　題

⑴　令和４年度認知症施策事業の実績報告について

（事務局）

資料１は令和４年度における認知症関連事業の実施実績の速報値であり、特段の記載がない場合は令和４年１２月２８日現在の実績を示しており、実施日等については予定を含めて記載している。

４番の認知症連携会議は、医療・介護従事者向けの認知症に関する事例検討等を行うことにより、多職種の連携強化を図る事業であり、新型コロナウイルス感染症の影響で令和２年度、３年度は中止としたため、令和元年度以来３年ぶりの実施となった。Ｗｅｂ会議にて認知症検診事業及び認知症初期集中支援事業における事例検討を行った。

５番の認知症検診は、令和３年度から東京都の１０分の１０の補助金を活用し、小金井市医師会の協力をいただきながら実施している事業である。今年度から実施期間を延長し、現在も期間中であるが、受診者数は５５人となっている。

７番と１０番は、認知症サポーター養成講座に関する項目で、キッズ認サポは昨年度４校から１校増え、５校での実施の見込みとなっている。

１３番及び参考資料の認知症講演会は、お元気サミット・介護みらいフェスにて令和４年１１月１０日に実施した。第１部として三澤委員長に司会を務めていただき、三鷹市ののぞみメモリークリニック院長である木之下先生に講演を行っていただいた後、第２部として認知症当事者とその支援者によるパネルディスカッションを行った。おおむね前回の本委員会で検討いただいたとおりの構成で実施できた。参考資料の２ページ、３ページは、第１部の講演の様子であり、木之下先生からは、認知症は誰もがなり得るものであり、他人事ではなく自分事として捉えることで、認知症に対する考え方や見え方が変わってくるとの話があった。参考資料の４ページ、５ページは、第２部の様子で、認知症当事者の２人に真ん中に座っていただき、当事者同士のディスカッション等も行った。２人からは認知症と診断された当時の心境や現在の活動等を紹介いただき、これからも自分らしく生きていきたいと前向きな話をいただいた。参考資料の６ページ、７ページがアンケート結果となっており、４４人に参加いただき、ほとんどの方が「とてもよかった」「よかった」との評価だった。また、アンケート結果を見て、認知症当事者の言葉は大きな影響力があることを改めて実感したところである。委員の皆様の協力のおかげで良い講演会となり、普及啓発が図れたものと考えている。

２１番及び参考資料の見守りシール事業は、認知症の方が行方不明となったことを

想定した捜索模擬訓練を地域包括支援センターが中心となって５回実施した。捜索模擬訓練とは、スマホアプリに訓練用の行方不明者情報を発信し、参加者にはアプリに発信された情報を基に行方不明者を捜索してもらい、行方不明者を発見した数に応じて参加者に景品等を配付するものである。今年度は貫井けやき公園の道草市で４回、梶野公園の梶野公園まつりで１回実施した。参考資料９ページ、１０ページが貫井けやき公園、１１ページ、１２ページが梶野公園で訓練を実施した際の様子であり、いずれも出店等が立ち並ぶ地域のお祭りで、貫井けやき公園の道草市には小金井みなみ地域包括センター、梶野公園まつりには小金井きた地域包括支援センターが出店者として参加し、行方不明者役にはほかの出店者にも協力いただき、訓練を実施した。訓練の実施結果は参考資料８ページに記載のとおりだが、訓練を実施することでアプリのダウンロード者数の増加だけでなく、認知症施策や高齢者施策、地域包括支援センターの普及啓発にもつながる取組である。

２４番及び参考資料のチームオレンジ設置に向けた検討は、今年度からの新規項目で、チームオレンジ設置に向けた足がかりとして、一体的支援事業を実施した。一体的支援事業は、認知症本人・家族の支援ニーズの抽出も兼ねて、本人・家族がともに活動する時間を設け、ほかの家族や地域との交流を行うことで、本人の意欲向上、家族の介護負担感の軽減、家族関係の再構築等を図るもので、参考資料１３ページ記載のとおり令和４年１０月１８日に前原町西之台会館で１時間半程度の交流を行った。各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が中心となって企画や参加者募集を行い、４組７人の認知症の方と家族が集まり、ボランティアの方にも参加してもらい、音楽鑑賞や合唱、回想法を行った。合唱は、歌集を配布し、ボランティアの方が弾く琴に合わせて行った。回想法は、過去のニュース映像を見ながら、当時の思い出などについてお話いただいた。参加者から聞き取った感想は、おおむね好評であり、プログラムの終了後には、ほかの家族と交流を図る場面も見られた。一方で、課題もあり、１つ目は、今回は地域包括支援センターが中心となって参加者を募ったが、直前の参加見合せや当日の欠席も含めて、参加者を集めるのに苦労したこと、２つ目は、地域包括支援センターが関わっている方は高齢の方が多く、移動が大変であること等が上げられ、今年度と同様の方法で来年度以降複数回実施していくことは困難であると考えている。来年度以降は事業の委託も視野に、複数回実施に向け検討を続ける。

（三澤委員長）

意見・質問等はあるか。

（意見・質問等なし）

⑵　チームオレンジ設置に向けた基本的な考えについて

（事務局）

まず、チームオレンジとは、できる範囲で手助けを行うという活動の任意性は維持しつつ、ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームをつくり、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みである。

令和元年６月に認知症施策推進大綱が関係閣僚会議で決定されており、同大綱の中では、政府の目標として令和７年度までに自治体におけるチームオレンジ設置率１００％を目指しているため、本市においても令和７年度までにチームオレンジを設置したいと考えている。

設置に向けた検討のステップは、⑴認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座を引き続き継続して実施することにより、支援者及び支援チームづくりに努め、⑵認知症の人とその家族の一体的支援事業を、今年度１回、来年度以降複数回実施し、認知症の人の支援ニーズの抽出に努める。チームオレンジは認知症サポーター等の支援チームと認知症の人やその家族の支援ニーズをつなげるもので、⑴と⑵で支援チームと支援ニーズ双方のニーズ抽出を行う。その上で⑶先進事例の情報収集を行いながら、設置場所やチームオレンジコーディネーターの選定等、設置に向けた検討を行い、⑷チームオレンジコーディネーターを配置する。チームオレンジコーディネーターの業務内容はチームオレンジの運営の中心を担うもので、具体的に誰が行っていくかも含めて、令和６年度～７年度の配置に向けて検討していく。

（三澤委員長）

意見・質問等はあるか。

（意見・質問等なし）

３　その他

（事務局）

次回の会議は、令和５年６月７日（水）を予定している。現委員の任期は令和５年３月３１日までであり、各団体に推薦依頼を送るので、引継ぎ含めて対応願いたい。

（三澤委員長）

６月７日は参加できない。

（事務局）

承知した。委員確定後に日程の変更等を改めて案内する。

４　閉　会